

4 第二次福山市教育振興基本計画

【基本理念】

本市の第五次総合計画のめざす未来（将来都市像）である「ひとが輝き 夢をはぐくむ 未来創造都市～ばらのまち 福山～」を実現するためには、「未来を創造する教育」の果たす役割が、これまで以上に重要となります。

そこで、福山市教育振興基本計画の基本理念や成果と課題を踏まえ、2016年（平成28年）1月に宣言した「福山100NEN教育」の推進を、第二次福山市教育振興基本計画の基本理念とします。

次の100年へ、更にその先の未来に向かって
「福山100NEN教育」の推進
私たちの毎日が、未来になる。

子どもたちが生きるこれからの社会は、少子高齢化、情報化・技術革新、グローバル化、環境・貧困問題等、変化の激しい先行き不透明な社会であると言われています。こうした社会を生きていく子どもたちには、「何を知っているか」ではなく、「知識を活用し、協働して新たな価値観を生み出せるか」ということが求められており、そのためには、知識や技能はもとより、課題発見・解決力、挑戦する力、粘り強さや忍耐力、コミュニケーション能力、思いやり・やさしさ・助け合いの心、いわゆる“ローズマインド”等の資質・能力を身に付けることが必要です。

本市教育委員会は、これらの資質・能力を、「21世紀型“スキル&倫理観”」として、日々の授業を中心とした全ての教育活動の中で育み、日常の様々な場面で行動化できる確かな学びにしていこうことを「福山100NEN教育」として取り組むこととしました。

これまでの小中一貫教育の取組をESD^{※1}の2つの観点^{※2}で見直し、「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けて、各教科や行事等のつながりを明確にした教育課程を編成・実施（カリキュラム・マネジメント）していくことで、自ら課題を発見し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりしながら、解決に向かって行動化できる確かな学びになるものと考えています。

このESDの考え方は、1960年代の高度経済成長期に人口増加・自然破壊が進み、資源・食料が不足することへの不安が高まったことを背景に、1980年代以降、世界首脳会議や国連関係の様々な会議等で「持続可能な社会」という考え方が示されるようになり、世界に広がっていきました。

その後、2002年（平成14年）に開催された地球環境サミットで日本政府が「持続可能な社会の担い手を育成する教育を子どもたちに与える必要がある」と提唱し、ESDが始まりました。

その実践においては、世界が直面している環境・貧困等の問題を自分の課題として捉え、身近なところから取り組むことにより、課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造する学習や活動が、世界182の国・地域の学校（ユネスコスクール^{※3}）で進められています。

※1 Education for Sustainable Development の略で、日本ユネスコ国内委員会では、持続可能な発展のための教育（持続発展教育）と訳している。

※2 2つの観点とは、①人格の発達や自律心、判断力、責任感等の人間性を育むこと ②他人や社会、自然環境との関係性を認識し、関わりつながりを尊重できる個人を育むこと である。

※3 ユネスコ（国連教育科学文化機関）の憲章に示された理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校。日本においては、文部科学省や日本ユネスコ国内委員会によってESDの推進拠点として位置付けられている。国・地域の数は、2016年（平成28年）10月現在のもの。

まさに「福山100NEN教育」がめざすものであり、「未来を創造する教育」であると言えます。

「福山100NEN教育」では、学校教育を中心に、生涯学習及び文化財について「持続可能なまちづくりを担う人材を育成する」という観点でつなげ、施策の系統性と連続性を確保しながら、取り組めます。

就学前教育は、人格形成の基礎を培う重要なものであり、小学校教育への円滑な接続を図る必要があります。子どもにとっては、「遊び」そのものが「学び」であり、遊ぶことが育ちにつながることから、自主的・創造的な「遊び」を通して、生涯の学びにつながる「学びの芽生え」を育みます。

生涯学習は、市民一人ひとりが生涯を通じて行う学習活動であり、家庭、学校、職場や地域等で多くの学習機会と出会い、様々な人とのつながりや社会との関わりをもたらします。そして、学びを通して、人とのつながり、活動が広がることで、まちづくりを担う市民の力を高めます。

文化財は、それぞれの時代に地域の人が、大切に守り、伝えてきた貴重な遺産であり、適切に保存・管理・活用することで、市民が、地域の素晴らしさに気付き、地域への愛着や誇りをもつことができます。福山に住み続けたいという意識を醸成し、文化財を活かした地域づくりを進めていきます。

「福山100NEN教育」が描く未来は、変化の激しい社会の中で、「子どもたちは、自分の夢の実現に向けて、ローズマインドを胸に、福山で、日本で、世界で、たくましく生きている。そして、環境・貧困・人権・平和・開発等、現代社会の様々な問題を自らの課題として捉え、それらの課題解決のために、様々な人々と協働して、持続可能な社会を創造している。我々大人は、生涯にわたって学び続けて自己の能力と可能性を高め、その成果を活かして、まちづくりに参画するとともに、次代を担う子どもたちを育てている。」という姿です。

“すべては子どもたちのために”を合言葉に、市民一丸となって、私たちの毎日が未来につながる日々の取組を、次の100年へ、更にその先の未来に向かって、着実に積み重ねていきます。



デザイナー故檜山 文さんの2作品を「福山100NEN教育」のシンボルとします。

【基本理念を実現するための4つの基本目標】

《就学前教育》

質の高い就学前教育の推進

乳幼児期における教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培い、小学校以降の学習や生活の基盤をつくることから、遊びを通じた学びの中で、主体的に学び続けるために必要な探究する力のもととなる「探究の芽」を育むとともに、小学校教育との円滑な接続を図ります。

《学校教育》

「たくましく生きる力」を育成する学校教育の推進

「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた教育課程に基づき、全ての教育活動を通して、行動化できる子どもを育てます。そのために、互いに切磋琢磨できる教育環境を整えるとともに、学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し、市民一丸となった取組を推進します。

《生涯学習・社会教育》

学びの成果を活かせる生涯学習の推進

次代を生きる子どもたちをはじめ、市民一人ひとりが、生涯にわたって学び続けることのできる社会を築くとともに、生涯学習の成果が、市民の学習活動支援や家庭教育支援等を通して、人材育成、地域づくり・まちづくりに活用され、活力のある地域コミュニティが実現できるまちをめざします。

《文化財》

福山の歴史を身近に感じられる文化財の保存と継承

福山市歴史文化基本構想^{※4}を策定し、それに基づき、本市の財産である福山城、明王院、廉塾、鞆の町並み等の貴重な文化財を、後世に引き継ぎ、歴史・文化への関心を深めるため、文化財の適正な保存・管理を行うほか、市民が福山の歴史を身近に感じることができるよう、その活用に取り組みます。

※4 地域に存在する文化財を、指定、未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想であり、本市が文化財保護行政を進める基本的なマスタープランとなるもの。

【施策体系】

基本理念	基本目標	基本施策	主な取組
「福山100年教育」の推進	《就学前教育》		
	質の高い就学前教育の推進	教育・保育の質の向上	(1) 生活や学びの基盤をつくる教育・保育内容の充実 (2) 認定こども園の整備
	《学校教育》		
	「たくましく生きる力」を育成する学校教育の推進	「自ら考え学ぶ授業」の推進	(1) 行動化できる学びを確実にする小中一貫教育の推進 (2) 行動化できる学びを牽引する中高一貫教育の推進 (3) 外国語教育・国際理解教育の推進 (4) 教科の専門性を高める教職員研修の充実 (5) 教育課程を中心に据えた学校経営
		市民一丸となった取組の推進	(1) 学校・家庭・地域で目標やビジョンを共有して進める教育活動 (2) 市民一丸の機運の醸成
		子どもの学びを支える教育環境の整備	(1) 望ましい学校教育環境の整備 (2) 子どもの安心・安全対策の充実 (3) 教育上特別な配慮を必要とする子どもへの支援の充実 (4) 就学支援の充実
	《生涯学習・社会教育》		
	学びの成果を活かせる生涯学習の推進	生涯学習・社会教育活動の充実	(1) 公民館等での学習機会の充実 (2) 誰もが気軽に利用できる図書館の充実
		学習成果を地域で活かせる環境の整備	(1) 地域で活動する人材の育成 (2) 学習成果を活動につなげる仕組みづくり
	《文化財》		
	福山の歴史を身近に感じられる文化財の保存と継承	文化財の調査と資料収集	(1) 文化財の調査・研究 (2) 文化財資料の調査と収集
		文化財の保存と活用	(1) 文化財の保存・管理・活用 (2) 文化財保護意識の醸成